

## 第2学年 保健体育科学習指導案「剣道」

2年1・2組男子 29名（1組14名・2組15名）@体育館2階

授業者：内藤 雄輝

### <保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の姿>

- ・主体的：運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり、新たな課題を設定したりする姿。
- ・対話的：運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組む姿。
- ・深い学び：習得・活用・探求という学びの課程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する姿。

### <単元のねらい>○運動の目標 ●集団の目標

○連続技（小手面・小手胴）を習得することを通して、打突の機会を捉えることの必要性を理解し、相手の隙をねらったり、相手を崩して打ったりする試合ができる。

●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりしながら、共に高まり合える仲間をめざす。

#### 【関心・意欲・態度】

・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど安全に気を配ることができるようにする。

#### 【技能】

・相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開する。

#### 【知識、思考・判断】

・武道の特性や成り立ち、伝統的な技の名称や行ない方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

### <単元指導計画（ねらいと評価規準）>※関（関心・意欲・態度）思（思考・判断）技（技能）知（知識）

時	ねらい	評価規準
1 関 知	【オリエンテーション】 ○単元の目標と学習の進め方を理解し、見通しをもつことができる。 ●めざす仲間の姿を考慮することができる。	・単元に対して積極的に取り組もうとしている。 ・学習の流れや武道ならではの安全面、相手を尊重する態度の大切さを理解し、見通しをもつことができる。
2 知	【礼儀作法・基本動作】 ○1年時に学習した礼儀作法と基本動作を確認し、身に付けることができる。 ●リーダーの指示でまとまって素早く活動ができる仲間になる。	・正しい礼儀作法を理解している。 ・リーダーの指示でまとまって素早く活動できている。
3 4 5 技	【基本打ち（面打ち・小手打ち・胴打ち）】 ○一足一刀の間合いから、力強く踏み込んで打突部位を正確に打ち込むことができる。 ●励まし合いながら、練習に取り組むことができる仲間になる。	・一足一刀の間合いから、打突部位を正確に打ち込むことができる。 ・励ましの声を積極的にかけている。
6 技	【連続技1（小手⇒面）】 ○小手を打って相手が下がったところ（何も反応しなかったところ）をねらって面を打ち込むことができる。 ●お互いの動きを見て、教え合うことができる仲間になる。	・小手を打って相手が下がったところ（何も反応しなかったところ）に面を打ち込むことができる。 ・ポイントに沿って積極的に情報を伝えている。
7 技	【連続技2（小手⇒胴）】 ○小手を打って相手の手元が上がったところ（面を防御しようとしたところ）をねらって胴を打ち込むことができる。 ●お互いの動きを見て、教え合うことができる仲間になる。	・小手を打って相手の手元が上がったところ（面を防御しようとしたところ）に胴を打ち込むことができる。 ・ポイントに沿って積極的に情報を伝えている。
8 技	【連続技の応用（小手⇒面 or 胴）】 ○自分から小手を打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって素早く面または胴を打ち込むことができる。 ●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。【本時】	・自分から一本打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって打ち込むことができる。 ・動き出しの声や、アドバイスの声を積極的にかけている。
9 思	【グループ内課題別練習】 ○連続技（小手面・小手胴）を使って、打突の機会を捉えることの必要性を理解し、相手の隙をねらったり、相手を崩したりして一本が取れるように得意技をつくる。 ●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりしながら、共に高まり合える仲間になる。	・連続技（小手面・小手胴）を使って、打突の機会を捉えることの必要性を理解し、相手の隙をねらったり、相手を崩したりして一本が取れるように得意技をつくりだそうとする。 ・動き出しの声や、アドバイスの声を積極的にかけている。
10 技 思	【最終対抗戦】 ○連続技（小手面・小手胴）を使って、打突の機会を捉えることの必要性を理解し、相手の隙をねらったり、相手を崩して打ったりする試合ができる。 ●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりしながら、共に高まり合える仲間になる。	・連続技（小手面・小手胴）を習得することを通して、打突の機会を捉えることの必要性を理解し、相手の隙をねらったり、相手を崩して打ったりする試合ができる。 ・動き出しの声や、アドバイスの声を積極的にかけている。
11 関	【反省会】 ○最終対抗戦の結果や学習の足跡をもとに振り返ることができる。 ●学習の姿をもとに振り返ることができる仲間になる。	・自分の成長や仲間の成長について、最終対抗戦の結果から認め合い、単元で学んだ技術ポイントや仲間との関わり合いについて振り返ることができる。

<本時のねらい> 「連続技の応用（小手→面 or 胴）」

○自分から小手を打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって素早く面または胴を打ち込むことができる。

●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。

<本時の展開> （本時の位置 8/11）

過程	学習内容		学習活動	研究内容2に関わる指導・援助
	○運動の側面	●集団の側面	運動・集団	○運動の側面 ●集団の側面
準備 授業前学習	<p>&lt;準備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防具着用</li> <li>・ 準備運動</li> </ul> <p>&lt;ドリル学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その場で連続打ち</li> <li>・ 手と足のタイミングを一致させるための連続打ち込み</li> </ul> <p>&lt;全体計画会&gt;</p> <p>○示範と資料提示から技能ポイントをつかむことができる。</p> <p>●前時の振り返りから、練習の中で、お互いの動きを見ながら具体的なアドバイスができていてる姿を知り、めざす仲間の姿を。明確にできる。</p>		<p>①&lt;準備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーが中心となって、全員が素早く防具を装着できるようにする。準備運動は、全員で声を出しながら行なう。</li> </ul> <p>②&lt;ドリル学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時よりも速く、強く打てるようにアドバイスし合ったり、認め合ったりしながら取り組む。</li> </ul> <p>③&lt;全体計画会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整列⇒黙想⇒あいさつ</li> </ul>	<p>①防具の装着がすばやくできるように声をかける。また、防具の装着が素早くできているグループの価値付けも行う。</p> <p>②うまくできない生徒に個別に教えたり、POを中心にアドバイスしたりする。</p> <p>③前時から、本時の課題につなげる。</p>
導入 計画会	<p>&lt;課題提示&gt;</p> <p>○自分から小手を打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって素早く面または胴を打ち込むことができる。</p> <p>●お互いの動きを見て、励まし合ったり、教え合ったりできる仲間になる。</p>		<p>【確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までは、小手面と小手胴の連続技を学習したことを確認する。</li> <li>・ 「連続技を試合で使ってみると、防御されてしまう場面が多くあった」という反省から、「小手面打つぞ」と決めてから打ちに行くのではなく、小手を打ったあとの相手の動きに注目する。</li> <li>・ 本時の課題の確認、練習方法の理解、安全面の確認、技能ポイントをつかむ。</li> </ul> <p>【技能ポイントの確認】 資料提示と示範による説明を聞く。</p>	<p>【確認】</p> <p>○6時間目に小手⇒面、7時間目（前回）に小手⇒胴を習得したことを確認する。連続技を行なう上で大切な技能ポイントを最初に復習しておく。</p> <p>○実際の試合において、連続技で一本を取るための方法を考える。</p> <p>○一本打つと相手は「防御する」「下がる」「手元が上がる」といった打突の機会が生じることを確認する。本時は小手を打ったあと相手の動きに応じて、面か胴を打って一本を取ることを課題とする。</p>
	<p>&lt;グループ計画会&gt;</p> <p>○全体会で聞いたポイントをもとに、自分が本時の試合で勝つための目標を確認することができる。</p> <p>●グループ全員が本時の課題を達成するために、自分ができるとは何か、役割を確認することができる。</p>		<p>【技能ポイント】</p> <p>①タイミング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小手を打つ⇒相手が下がった瞬間に面 ⇒相手が面を防御した瞬間に胴</li> <li>・ 相手が動いたところを瞬時に捉えることを大切にする。</li> </ul> <p>②間合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小手を打った時、相手に近づきすぎると二本目の技を竹刀の物打ちで打つことができない。試合の中で小手を打ったあと、相手が下がるとは限らない。連続技は二本目に打った技を有効打突になればよいので、小手を打ったとき相手に近づきすぎないようにする。</li> <li>・ 連続技は二本目を有効打突にすればよいので、一本目（小手）は鐙元や竹刀を打てばよい。</li> </ul>	<p>【技能ポイントの確認】</p> <p>○一本打って相手に隙ができたところに打ち込むにあたって、大切な技能ポイントを示範と資料提示から確認させる。</p> <p>●グループ練習の中で、技能ポイントから見る視点を明確にする。</p>
	<p>【初めの意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小手打った後、面を打つか胴を打つかしっかり判断しないといけない。見極めるタイミングをつかめるように頑張るぞ。</li> <li>・ 連続技を正確に打つために、技能ポイントをもう一度確認しておこう。</li> </ul>		<p>●前時の振り返りから、グループ練習の中で、お互いの動きを見ながら励まし合ったり、教え合ったりできている姿を紹介し、仲間とのよい関わり合い方を確認させる。</p> <p>④&lt;グループ計画会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習カードを記入して、目標を確認する。</li> <li>・ リーダーが進行を行い、練習方法(安全面)、技能ポイントの確認。</li> </ul>	<p>【グループ練習で見るポイント（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 打つ方が小手を打った後、相手の動きを確認してから打っているか。 ⇒二本目を打つ時、「下がったら面、相手の手元が上がったら「面を防御したら」胴を打とう」とアドバイスする。</li> </ul>

過程	学習内容		学習活動	研究内容2に関わる指導・援助	
	○運動の側面	●集団の側面	運動・集団	○運動の側面	●集団の側面
前半練習 中間研究会 後半練習	<p><b>&lt;前半練習&gt;</b> ○面をつけて仲間と練習することができる。</p> <p><b>【前半練習終了時の意識】</b> ・小手を打ったあと、相手の動きをしっかりと見ることが大切であることが分かった。あとは二本目を正確に打つための間合いを確認しよう。</p> <p><b>&lt;中間研究会&gt;</b> ○前半練習を振り返り、試合につなげることができる。</p> <p><b>&lt;後半練習&gt;</b> ○試合に向けて、技能を磨くことができる。</p>	<p>●動き方が分からない仲間に丁寧に教えることができる。</p> <p>●お互いの動きを見ながら、間合いやタイミングついてアドバイスし合うことができる。</p> <p>●前半練習でかけ合ったアドバイスを確認し、後半練習につなげることができる。</p> <p>●中間研究会で確認した技能ポイントをお互いに見合うことができる。</p>	<p><b>⑤&lt;前半練習&gt;【約束練習】</b> ○面をつけてグループ練習。 ①打つ側「小手」 ②打たせる側「小手を打たれたら下がる or 面を防御」 ③打つ側「相手が下がったら面、手元が上がったら胴」 ・1本ずつ、グループで交代しながら行う。 ・打つ側は自分が一本打つことによって相手がどのように反応するのかをよくみてから打つ。 ・最初はゆっくり行ない、徐々にスピードをあげていく。 ●観察係はお互いの動きを見ながら、「1試技 → アドバイス」を心がける。 ・観察係は竹刀が対峙している所より少し後ろで、観察する。 ・最初は打たせる側の動きをみて、「下がったから面だよ!」と、教えてあげる。</p> <p><b>⑥&lt;中間研究会&gt;</b> ○手本となる仲間（小手を打ったあと、相手の動きに応じて瞬時に面 or 胴を打ち込んでいる姿）を見て、めざす姿や参考となる技能ポイントを確認する。 ○試合において連続技で一本を取るために、後半練習で大切にしている技能ポイント（既習事項である「打った後、左足を素早く引き付ける」など）を確認する。</p> <p><b>⑦&lt;後半練習&gt;【約束練習】</b> ○中間研究会で学んだことをもとに、練習に取り組む。※練習方法は⑤&lt;前半練習&gt;と同じ。 ・小手を打った後、どちらを打つのか迷ってしまう。⇒「手元の動きをよくみて!」 ・打とうと思ってすぐに打てない。小手を打ったあとの足や剣先の位置を確認。</p>	<p>⑤ 上手くできない生徒に声をかけ、一緒に技能ポイントを確認しながら練習させる。 ○動画を撮影し、動きや上達を確認できるようにする。</p> <p>⑥ お手本として紹介したい姿を⑤のときに、把握する。 ● どのような視点でお手本をみればよいのかを押さえる。</p> <p>⑦ <b>【C→B】への生徒への手立て</b> ・一緒に動きながら、技能ポイントを確認する。また、自信をつけさせるために動画を撮影して自己の姿を振り返らせ、少しでも上達した姿を価値付ける。 <b>【B→A】への生徒への手立て</b> ・「相手が面を受けたら」「相手が下がってから」という意識から、「小手を打った後、相手が動いた時に瞬時に打ち込む」という意識へ変えていくために、ゆっくりな動作から徐々にスピードをあげ、より実践的な練習へレベルアップさせていく。</p>	
試合	<p><b>&lt;試合&gt;</b> ○練習の成果を発揮することができる。</p>	<p>●審判一人一人が責任をもってそれぞれの観点を判定することができる。</p> <p>●勝ち負けだけに一喜一憂するのではなく、礼儀作法にもこだわり、所作を美しく行なうことを心がけることができる。</p>	<p><b>⑧&lt;試合&gt;</b> ○試合時間はランニング40秒 ○一本=1点 ○審判は3人⇒一人一人違う観点を見る。 ⇒<b>声</b>大きな声が出ているか判断する人。 <b>打突</b>打突部位を刃筋正しく打つことができているか判断する人。 <b>残心</b>残心ができているか判断する人。 ●スムーズに試合ができるように、リーダー中心に声をかけ合う。</p>	<p><b>&lt;評価規準&gt;</b> 自分から小手を打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって素早く面または胴を打ち込むことができる。(技)</p>	
反省会	<p><b>&lt;グループ反省会&gt;</b> ○課題の達成度を評価することができる。</p> <p><b>&lt;全体反省会&gt;</b> ○自分から一本打って、隙ができたところに打ち込むことができたか振り返ることができる。</p> <p><b>【終わりの意識】</b> ・自分から小手を打って、相手の動きに応じて打突の機会をねらって素早く面または胴を打ち込むことができた。 ・仲間の動きを見てアドバイスしたことによって、仲間が試合で一本をとることができた。</p>	<p>●お互いの動きを見ながら具体的なアドバイスができたか振り返ることができる。</p>	<p><b>⑨&lt;グループ反省会&gt;</b> ・試合の結果を参考に、課題の達成度を評価する。 ・仲間の良かった点を発表し、認め合う。 ⇒学習カードに記入。</p> <p><b>⑩&lt;全体反省会&gt;</b> ・今日の授業を受けての感想や、仲間の良い姿を発表する。 ・本時の評価を聞き、次時の見直しをもつ。</p>	<p>⑧ 短い時間なので、積極的に技を仕かけるように促す。 ○良い技、惜しい技を積極的に価値付ける。</p>	<p>⑧ 審判には自信をもって積極的に旗を上げるように促す。 ● 自信をもって正しく判断している姿を価値付けることで、自信をもたせる。</p>
			<p><b>⑨⑩</b> ○「勝てた、負けた」「打てた、打たれた」で終わらず、理由や要因を振り返る。書くことが分からない場合、仲間に自分の姿を聞くように促す。 ● 自分が仲間のために貢献できたことは何かを振り返る。また、仲間の良かったところを書き留めておき、今後に生かせる振り返りにしたい。</p>		